

No.128

公民館だより

平成18年11月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

運動のすすめ

由良地区公民館長 飯澤登志朗

文部科学省は「スポーツ振興基本計画」の改訂版を官報で告示しました。

「子どもの体力の向上」を政策に挙げて危機感を前面に出す一方で、生涯スポーツ社会の実現や国際競技力の向上は微調整となりました。

子どもの体力低下は、外遊びやスポーツの重要性を軽視する国民意識・生活が便利になったことで体を動かすことが減少したことだと指摘しています。

最近の子どもは体格は大きくなつたがスタミナがないと云われていますが、それでは成人は

如何でしょうか。

01年度から10カ年計画でスタートした「スポーツ振興基本計画」が5年を経過した現在の状況は目標に掲げた「成人の週一回以上のスポーツ実施率50%」は34%、38%台で目標には達していない状況です。

スポーツと聞きますと、野球やバレーボール等激しい動きを想い浮かべますが自分の体力に合った運動だと考えますともう少し実施率は向上していると思えます。

「人間五十年」。現在の高齢化社会では死語に等しくなりまし

たがこの一節、織田信長が桶狭間に出陣するに当たり幸若舞の「敦盛」を自ら舞った事はあまりにも有名です。

しかし現在50歳を越えた者にとつては只の通過点であり決して折り返し点ではないと思います。去る九月九日、公民館が開催したグラウンドゴルフ大会には多くの方々の参加がありました。

また早朝や夜間ウォーキングする姿を良く見かけますが、健康に注意されている方は多いと思います。

もう歳だから、スポーツは無理と考えず自分の体に合った運動を続けることが大切です。

宮津市高齢者保健福祉計画が決定し、その概要が各戸に配布されました。

読んで即理解とはいかないと思いますが一番の目的は「予防重視型システムへの転換」ではないでしょうか。

高齢者が主体性と人権を最大限尊重されたり、自立支援を進

めるために機能低下の防止や、機能の維持、向上のための取組みが中心となりますが行政の進める対策に甘んじることなく、自己保守に努めたいものです。

寝たきりになりたくない、家族に負担を掛けたくない、と願うのは皆さん一緒だと思いますが若い内から自分に合った適度な運動を続けたいと思います。

深呼吸〇〇回でも・大きな背伸びでも・出来れば屈伸を取り入れて、そして軽スポーツに参加加してください。

今年の敬老会は天候悪化で中止となりましたが当日は満百歳を迎えられたMさんに対し、総理大臣や京都府知事、宮津市長からの賞状や記念品の贈呈が予定されていました。

健康で長寿の条件は食生活は勿論、適度の運動やストレスを溜めない心の持ち方の方ようです。地区の皆さんと一緒に運動することを大切にしていききたいと思えます。

行事報告

主事 磯田 充亮

◎八月二十日(日)

盆踊り大会(地藏盆)

子供地藏盆が行なわれたあと例年より一時間早く松原寺境内において、約二五〇名の参加をえて盆おどり大会を開催いたしました。

今年開催中天候に恵まれ、境内に提灯を飾ることができ、櫓を囲み踊る人達も艶やかな感じがしました。

お寺の門には、子供達の絵が貼られた大きな灯籠や足元を照らす沢山の竹筒の灯籠に灯が入れられ、盆おどり大会を盛り上げていました。

今回は「宮津美しさ探検隊」の取材を受け「どこどこ」新聞44号に中西夏江先生記による、「由良えいへいや踊り」について掲載されました。

今回も婦人会、由良踊り保存会等皆様のご協力を受け、例年がない盛大な大会となりました。ありがとうございました。

◎九月九日(土)

ふれあい

グランドゴルフ大会

初めての試みとして地区民の親睦を目的に、十六夜の月が照る夜、小学校グランドで開催しました。

コースは総飛距離320m、ホール間最長60m最短15mを含む10ホールを設定し、10チーム(51名参加)でスタートしました。

プレーヤーは60、70歳代が多く、初めての方や以前経験した方が多く参加されていきました。

中では準優勝した「JA年金チーム」は平均73歳の高齢にかかわらずホールインワンを二回出すベテラン揃いでした。

個人では、渡辺さん(JA)が23打で廻り最多は47打でした。団体優勝は「少年野球チーム」で一人平均打数は32.0でした。

会場は時々歓声をあげる等、和やかな雰囲気、重陽の節句に相応しい大会となり、再開を望む人達が大勢いました。

◎六月十一日(日)

四部対抗

バレーボール大会

第二七回大会を由良自治連合会と共催で開催しました。

今回はソフトバレーボールを使用した、9人制ママさんバレーボールのルールで実施しました。

最初はボールの特異な動きに戸惑っていた選手も慣れにしながら好プレーを続出し、白熱した試合となりました。

男女とも三部が優勝、女子の三部は17回連続優勝を成し遂げました。

優 勝	三部	女子の部
準優勝	四部	四部
三 位	二部	二部
四 位	一部	一部

◎八月十四日(月)

四部対抗

ソフトボール大会

今年晴天に恵まれ、二年ぶりに開催しました。

今回は各部一チーム18名の編成でトーナメント戦を行ない、三位決定戦を含む四試合を実施しました。

当日は各チームとも精鋭の選手が選抜され、外気温37℃にもかかわらず、打ってはセンターオーバールのホームラン、守っては難しいゴロ、フライ等の捕球、エラーも少なく好プレーが続出し、緊迫した若さあふれる試合となりました。

結果は次のとおりです。

優 勝	一部	三 位	三部
準優勝	四部	四 位	二部

山形県庄内由良を訪問して

訪問団長 野村孝行

「山形県庄内由良」と「丹後由良」は遠く大和の時代の蜂子皇子伝説に由来するつながりがあることから一九七八年に庄内由良の文化財愛好家の会長である佐藤儀助氏が「蜂子皇子」の伝説をたどり庄内由良と丹後由良の交流のきっかけとなったと聞いております。

二年後の一九八〇年に丹後由良の「歴史をさぐる会」代表五名が伝説の話を聞く為に庄内由良を訪問しました。それから五年後一九八五年に庄内由良と丹後由良との友好関係締結の話が進み、庄内由良で丹後由良訪問団を結成され、自治会長を団長に十六名の方々が丹後由良を訪問されました。その時、「庄内由良・丹後由良友好の浜」の盟約が締結され、「丹後の由良・庄内

の由良は、遠く大和の時代、権力の争いから逃れた蜂子皇子が丹後の由良から乗船、日本海を北上、出羽の地に上陸、ここに村人が住み着き、遠き故郷をしのび「由良」と名付けたと伝えられ、奇縁であり、改めて祖先の行いを讃え親善と友好の関係に基づき、文化教育の交流を緊密にして友好に努力する事を誓い、ここに盟約を宣言する」と宣言され、同時に鶴岡市・宮津市の親書を交換して以後三年ごとに交互に小学生を交えた訪問団の派遣を約束しており、庄内由良から三回、丹後由良から今回を含め三回訪問の交流が深められております。

庄内由良は当地区と同じ様な地区で戸数三百六十戸余り小学生六十五名で地形もよく似てお

ります。今回訪問団は大人十五人(自治会・学校・PTA・公民館・歴史をさぐる会)小学生児童十名(六年生)今回は小学生児童については学校から保護者を通じ六年生全員に参加を呼びかけて多くの参加者がありました。八月二十三日、出発、敦賀から寝台特急で翌二十四日六時六分あつみ温泉駅に到着、坂本自治会長はじめ役員、小学校校長ほか多数のお迎えを受け、八乙女ホテルのマイクロボスでホテル到着、休憩・朝食を済ませ、午前九時三十分から午後一時まで庄内由良小学校において学校交流行事、両由良の各代表挨拶の後、体育館で交流会となり、庄内由良小学校の紹介、児童の合唱、スクールバンドの演奏と立派で感激しました。又こちらからは十名が揃って運動会での踊り「キッズソーラン」、自分たちの学校の紹介等、元気良く発表し見事でした。

その後、鶴岡市マイクロボス

二台で、加茂水族館見学、午後四時に鶴岡市役所表敬訪問。富塚陽一市長・佐藤市議会議員、坂本自治会長、役員、市役所幹部の方々の歓迎を受けました。宮津市長からの親書を代読して手渡し、暫く懇談しました。鶴岡市も交流について大変なご協力を頂いております。(マイクロボス二台を二日間運行、市役所職員の派遣)。午後六時から小学生交流夕食会、大人歓迎交流会は、午後六時三〇分から佐藤市議員をはじめ坂本自治会長、各種団体の方々、総勢六十名以上の歓迎を受け、午後八時三十分閉会となりました。庄内由良の方々には丹後由良が祖先として敬っている心が十分に私達訪問団には伝わり心温まるもてなしを受け、有意義な交流が出来たこと団員一同喜んでおります。

二十五日は、鶴岡市のマイクロボス二台で観光、致道博物館(武士の中にだらしのない者が増えてきたことで武士の家の男の子

が入った学校です。)

論語の「君子八学ビテ以テソノ道ヲ致ス」から致道館と名がつけられ教科書は漢文で書かれた中国の本が使用されていました。鶴岡市の致道館は小・中学生が訪れ学んでおります。私たちも鶴岡市社会教育課の笠井さんより庄内論語の一部を紹介いたしますと、漢文で書かれ、意味も書かれた書類を頂き解り易く熱心に説得力ある言葉で教えて頂きました。漢文は解りませんが、毎日しばしば自分を反省する、一つは人に真心をもつて接したか、二つには友達と交わっていつわりなく真実を尽くしたか、三つ目は自分が充分な勉強もせず、人に口軽く教えたことはなかつたか。と自分を磨くことを大事なことだということ。又『己が欲せざる所、人に施すことなかれ』(意味)一生涯守つてゆかなければならないことは、自分が嫌だと思ふことは人にしないように心を用いること

である。それは思いやりの心と

いうことです。羽黒山散策(羽黒山山頂大鳥居をくぐると出羽神社を合祭し合祭殿としている。庄内由良自治会のご厚志により一同ご祈禱をうけました。)

湯殿山神社参拝 庄内観光物産館など親切丁寧案内して頂き、ホテルに宿泊。二十六日自治会役員、小学生児童に見送られて出発、元気に無事帰ってまいりました。

最後になりましたが、これからも経費をはじめ数々の課題があります。欲張らず見栄を張らず、未永く交流が継続出来ることを願っております。又、今回訪問に対してご協力、ご支援して頂きました地区の皆様へ厚くお礼申し上げます。



庄内由良を訪問して

由良小学校長 倉野 英明

まだまだ残暑厳しい八月二十三日から二十六日の四日間、三年に一度お互いの地域を訪問し合う庄内・丹後由良の交流に学校から、今回は教員三名と六年児童十名を入れ、総勢二十五人で参加をした。

由良駅を午後七時十一分に発ち、鈍行列車に揺られながら、敦賀駅に着いたのは十時過ぎだった。そこで、寝台特急日本海に乗り込み、十時三十二分、一路、山形(庄内鶴岡市)に向け列車は出発した。

就寝するのに適した時間にはなっていたが、初めての寝台車やみんなどの長旅、むこうで繰り広げるであろう楽しい出来事などが、頭をよぎりなかなか寝付けなかった。その上、寝台車は一室四人が向かい合って二段

になっており、狭く、カーテンで仕切られているため、外からの声も聞こえてくるし、なににより相当のスピードで走っているため、よく揺れてうとうとすると起こされるといった具合であった。

しかしながら、何とか浅い睡眠をとり、カーテン越しに朝が白々と明けてきたかなと思うのが早いか隣の方から声が聞こえてきた。

「あれは、佐渡島か。」
まだ、そんな所なのかなと思いい、通路側の窓越しに外を覗くと、確かに島が見えていた。(佐渡島ではなく、新潟県の北部に位置し、船で一時間半ぐらいかかる人口四〇〇人ぐらいの粟島) そうこうする間に列車は、あつみ温泉駅に到着した。駅には、

庄内由良の自治会の方々や校長先生達が待ち受けていた。手配してもらったマイクロバスに乗り由良にある八乙女ホテルに着き、朝食を食べ、大広間で学校に行く時間までくつろいでいた。

交流行事のため、学校の正門を入り、マイクロバスを玄関前に横着けてもらった。運動場は、本校と比べると三分の一ぐらいの広さで、校舎もこぢんまりとしており、廊下も少し狭く感じました。交流会が始まるまで校長室に通されて、相互紹介をし、思いついた話を花を咲かせていると、学校の中を案内してくれるというので、各教室を見て回った。(庄内由良小学校では、八月二十三日から二学期が始まっている。)

全校児童は六十五人で、元気のよい声が教室やグラウンド奥のプールから聞こえてくる。

一通り説明を受けた後、体育館に移動して交流会が始まった。庄内由良小児童による校歌斉唱。

そして、校長先生のあいさつ、出羽三山(月山、湯殿山、羽黒山)の開祖、丹後由良から蘇我氏の難を避け、海路を経て庄内由良の海岸に上陸した蜂子皇子の業績を詳しく話をされた。続いて児童会長の歓迎のあいさつ、

次は、庄内由良小の伝統となっている高学年によるスクールバンドの演奏。トランペットやホルン等腹の底に響き渡る金管特有の高い音色に聞き惚れていた。聞くところによると、朝の休み時間等を使い、六年生が五年生に吹き方や演奏方法を教えていると言うことであつた。小学生では難しいと思える楽器をよくここまで自在に演奏することに感服したのと、児童たちの好ましいつながりが脈々と息づいていることを音楽を通して実感した。

次は、こちらの番で、最初にわたしが、訪問の意義やお互い学校間で行っている交流について話をし、児童会長のあいさつ、

パソコンを使って、一年間の教育活動を一人ひとり説明した。その後、当初は、二部(六年生同士の交流)で披露することになつていた、運動会で取り組んだマスのゲームのキッズソーランの踊り。せっかく踊ってくれるんであれば、庄内由良小の全児童に見せて欲しいと言った要望があり、元気にそして躍動感溢れる踊りを見ていただいた。

一部が終了し、次は二部の交流。自己紹介の後、山形の代表的な郷土芸能、花笠踊りを少数に分かれ身振り手振り教えてもらった。小学校六年生とはいえ、身のこなしや手の振り方に無駄がなく、何気ない仕草に科がありとても上手であつた。

憶えが早い子、なかなかリズムに乗れない子といろいろであったが、その頃になると、お互い打ち解けてワイワイいながら、花笠踊りを踊っていた。

次は二階に上がり、図書室でお互い関心のあることや共通の

話題を話ながら一緒に給食をおいしくいただいた。少しの休憩の後、庄内由良小の全児童と教職員に見送られ、「さようなら。」「ありがとう。」「また来てよ。」の声に送られながら学校を後にした。

マイクロバスに乗り、加茂水族館や至道館を見学し、鶴岡市長表敬訪問と続き、夜は、総勢六十人の歓迎会と日程は、大変詰まっております、寝不足と相成つて大変疲れた一日であつた。

また、児童たちは、別室で六年生同士で歓迎会が設定されており、ごちそうを食べながら、ゲームや地元祭りの恰好をしたりして親交を深めた。

二日目は、蜂子皇子ゆかりの出羽三山の羽黒山や湯殿山めぐり、そして、みんなのお目当ての土産を庄内物産館で買い、ホテルへ帰った。

最後の日は、用意してもらった弁当を列車でとるほど朝早く発つて、新潟、金沢、敦賀で列



車に乗り換え帰路についた。
この訪問を通して、庄内由良と丹後の由良が兄弟のような親近感で交流を深め、これからもさらに確かなものにしていくというとする気持ちが随所に表れていた。

庄内由良地区、PTA、児童の皆さんの駅への迎えと見送り、歓迎会への大勢の参加、旅行を通しての接待、心配り、鶴岡市

のバスの手配と観光地への配慮、いたれりつくせりの旅であった。帰ってから手紙のやりとりをしている子もおり、児童たちも交流会だけでなく、丹後、庄内の由良の人たちの訪問に寄せる思いや温かい人情にふれ、言葉では言い表せないほどの多くの事を学んだ四日間であったと思う。

庄内由良訪問記

6年 飯田紋佳

山形の庄内由良とは、伝説や同じ学校名などの共通点があることから、交流を続けていて今年

は、丹後由良が行く番でした。

山形へ行って一番楽しかった事は庄内由良小学校の人たちとの交流です。

八月二十四日の朝、庄内由良小学校へ行きました。各教室を見学して、体育館へ行くと全校生徒が私たちを出むかえてくれました。高学年のスクールバンドの演奏を聞きました。とつても上手に演奏ができていました。今度は、丹後由良の番です。児童会の代表として会長がいさつをし、その後全員で丹後由良の学校紹介をしました。みんな上手に発表できたと思います。お昼ご飯は庄内由良小学校からの給食を食べました。

次に楽しかったのは、ち道博物館、羽黒山、国宝の五重のとう、湯どの山です。

八月二十五日、ホテルを出発し、ち道博物館へ行きました。昔使っていたんだなあと感

じはしました。

羽黒山の神社は、とつてもりっぱな建物でびっくりしました。五重のとうなども大きいです。湯どの山は山の上へ行くと、参拝する前におはらいをしてもらって、紙で作った人形で体をきよめて川に流しました。それから足湯などにも入りました。

山形の親せん訪問は、とつても長い旅でつかれたけどいい思い出になりました。これからもこのような交流がずっと続くといいと思います。

6年 儀本 ちなみ

わたしたち十人は、まず山形についてホテルに行ったあと、バスに乗って九時三十分頃、しよう内由良小学校に行きました。まず学校の中をしようかいしてもらって、学校の中を歩いたり、一年から六年生の教室を見せてもらいました。どこの教室でも、大きな声で「おはようございます。」と言ってくれました。そして、十時になったので私たちのかんげい会のため体育館に行きました。そこではみんなが、はく手でむかえてくれてうれしかったです。そして、校長先生のあいさつや会長などのあいさつあと、しよう内由良の人、三

ぼくは、山形県に行つて楽しかったことは、大きく分けて二つあります。一つめは、山形県つるおか市の由良小学校の人といっしょにいろんな交流をした

人が最初に学校しようかいをしてくれました。そのあとに、わたしたち丹後由良小学校のことをしようかいしました。「春夏秋冬」をテーマに一年の行事を説明しました。そのあとに、キツズソーランをおどりました。ちよつと、きんちようして、まぢがえた所もあつたけど、だいたいうまくできてよかつたです。そして、しよう内由良の人がブルースバンドをしてくれました。上手でした。それで一年生から六年生までとの交流会がおわりました。楽しかつたし、この夏一番の思い出になりました。

6年 北野 雅基

ことです。ぼくは、最初由良小学校の人はどんな人かなと、楽しみにしていました。そして、交流が始まりました。由良小学校の人のスクールバンドや、小

学校のしようかいをしてくれました。それと、山形の由良小学校のしようかいにも遠泳というのがありました。山形の遠泳は八百メートルだと言っていました。ぼくは、由良小学校は一キロなのに、なんで、八百メートルなのかと思いました。そして、そのあと、ぼくたちがキツズソーランをおどつたり学校のしようかいをしました。ちよつときんちようしました。そのあと、山形の人と、きゆう食を食べま

庄内由良へは八月二十三日から二十六日までいっていました。一日目の夜はしん台車でねました。ねている間に、山形県にいていました。とつても速いなと思ひました。バスが駅までむかえにきていて、バスに乗つて学校まで行き交流会をしました。私がこの訪問で心に残つたことは、山形の小学校の人といっし

6年 寺澤 真由

した。楽しかつたです。二つめは、ゆどの山にのぼつたことです。ここでは、まず、おはらいをしてもらつて、くつしたをぬいで、道のあるいて行くと、おゆが流れるところがあつたので、そこを、のぼりました。そして、おまいりをしておりてきました。最後に足ゆに入りました。そして山をおりました。いい思い出になりました。ほかにも、かも水族館や、ホテルも楽しかつたです。

よに、花がさおんどを楽しくおどつたり、山形の小学校で給食を食べたこと、その日に、山形の人と夜ごはんを食べたことです。一日しか交流はできなかつたけど、その後の日も全部おもしろかつたし、その日その日の朝・昼・夜のごはんも全部家とはちがつたごはんでした。だから、とてもおいしかつたです。

しん台車に乗る事も、山形県の人との交流も、何もかもが初体験でとても心に残りました。もう山形に行くきかいはないと思うので、これは一生の思い出になったと思います。

八月二十三日七時すぎの電車に乗って、しょう内由良に行きました。一日目は、しん台しゃでねておきて、少ししたらつきました。そのあとホテルへ行き、ごはんを食べ部屋にいきました。重い荷物をおろして、ベランダに出たりしてくつろいでいました。そして、しょう内由良小学校へ交流をしに行きました。図書室に入りました。そしたら先生がきて、体育館に行きました。しょう内由良の小学生全員がむかえてくれました。まずそれぞれの学校のしょうかいをしました。しょう内由良の遠泳は約八百メートルだそうです。僕は一キロメートルで、ちよつとか

今後三年後には、山形の人が丹後由良にくる番です。私は由良小学校を卒業しているけど、これから、丹後由良と山形県との交流は、ずっと続いてほしいです。

6年 中西 峻

んたんじゃないかと思いました。そのあとしょう内由良の小学生が、楽器演奏してくれました。次に、ぼくたちがキッズソーランをしました。少し長いのでつかれました。そのあと、むこうが花がさおんどをしてくれました。初めて見たけど、うまいって感じがしました。そのあと教えてもらうことになりました。けれどさっぱりでした。そのあと給食を食べて帰りました。その夜の夜、むこうの子といっしょにホテルで夜ごはんを食べ、さらに交流を深めました。三ばく四日の山形ほうもんでしたが、忘れられない思い出になりました。

しん台電車で、りよう君とぼくは、カードで遊んだりしたあとねました。

起きて、三十分ぐらいすると駅につきました。そして、バスでホテルに行き、荷物をおきにきました。みんな、「こうかやなあー。」と、言っていました。

そして、しょう内由良に行き体育館で山形の説明をもらいました。学校の説明のあとキッズソーランをしました。ぼくは、真ん中だったから、きんちようしました。それから、しょう内由良の給食をいっしょに食べた。花がさおどりを教えてもらいました。

ホテルでは、女子がふろにいて、ぼくとりよう君は、かーどをして、いろいろして遊びました。

そのあと、夜ご飯をしょう内由良の人と食べました。そして、

6年 前 畑 俊 樹

友達が二人できました。いろいろ話しました。さいご山形の人か帰るとき女子は、住所を聞いていました。ぼくは、写真をとってもらいました。

三日目の夕方夕日がおりにくところを生で見れてよかったです。

しょう内由良とは、しょう徳太子の親せきにあたる、はちこのおうじの父が殺され、その後海をわたってついたところがしょう内由良だったので関係が深いと知りました。

もつとしょう内由良との交流が続いてほしいです。



6年 森田沙瑛

私が庄内由良を訪問して、心に残ったことは二つあります。一つ目は庄内由良小学校の六年生とやりゆうしたことです。

由良小学校に行った時は自己しようかいをしたり、花がさ音などを教えてもらったりしたけど、ちよつとしゃべっただけで、だ

れの名前も知りませんでした。でも、その日の夜ごはんをいっしょに食べたとき、たくさんしゃべって友達になりました。名前

前覚えのゲームもあって、いっしょに食べた人四人の名前を覚えました。最後に女子四人で写真をとりました。友達ができて、よかつたです。

8月23日の夕方、由良駅に集まりました。出発式をした後電車に乗りました。と中てい車時間が長かつたのでおりたらスタンプがあつたので押しました。

二つ目は加も水族館に行ったことです。いろんな魚がいて、

おもしろかつたです。クラゲがなぜかたくさんいて、いろんな種類のクラゲを見ました。

アシカのショーもありました。いろんな芸をしていて、すごかつたです。

ウミネコに魚をやることもしました。魚を投げるとウミネコがじょうずにとつていてすごかつたです。

庄内由良訪問はとても楽しかつたです。ちようどいける年だよかつたです。いい思い出になりました。

6年 矢野安希

おして電車に乗って出発しました。そして、と申しんだい車に乗りかえました。ベットに行き遊んでねました。朝、起きて少ししたら、あつみ温泉駅につき

ました。そこからホテルへバスで行きました。少ししてから小学校へ行きました。行つてから学校の中の説明の後、体育館へ行きました。そしたら、みんな集まっていたました。こう流会が始まりました。庄内由良の校長先生から話がありました。その後小学校のしようかいがありました。

庄内由良の小学校は、スクーバルバンドというのがあつて、五、六年生で演奏してくれました。上手でした。

次に、丹後由良小のしようかいをしました。さらに運動会では、

八月二十三日から二十六日まで、山形県に行きました。その中で一番楽しかつたのは、庄内由良小学校と交流した二十四日です。二十四日の朝には、山形県についていました。とまるどころは八おとめホテルというところでした。朝ごはんやおふる

おどつたキッズソーランをおどりました。つかれました。一度図書室に入つてまた体育館に行く

くと、六年生がいました。そして名前ととくぎなどを言つた後、花がさおんどを教へてもらつておどりました。少しおどれまし

た。その後いろんな所を見学したりして、ホテルに帰り、夜ごはんを庄内由良の六年生と食べました。写真をとつたりして楽しかつたです。

次の日は、山に登つたりしておみやげを買つて帰りました。つかれたけど楽しい四日間になりました。

6年 由利美咲

に入つたりして、庄内由良小学校に行きました。私たちは、小学校を案内してもらいました。十時から交流会が始まりました。庄内由良の人が発表した中で、一番すごいと思つたのは、スクーバルバンドでした。大きな音ですごいはく力でした。全校生徒

との交流が終わり、次は六年生
どおしの交流でした。その中で
一番いんしよ的だったのは、
花がさおんどを教えてもらった
事でした。とてもむずかしくて
なかなかできませんでした。

庄内由良の給食はパンにクル
ミみたいなのが入っていました。
そして、庄内由良の人とわか
れました。その日の夜は庄内由
良の六年生とごはんを食べまし
た。その中では、庄内由良の人

八月二十三日から八月二十六
日まで、山形県鶴岡市の由良に
六年生十人と先生と地いきの方
と、いっしょに行きました。

私は、行く前に先生から、は
ちこ皇子のことを聞くまでは、
関係があることはなんとなく知
っていたけど、くわしくは知り
ませんでした。

私が山形へ行って、一番楽し
かったのは、山形の由良小の人
と交流したことです。

の名前をおぼえるゲームをしま
したが、なかなかおぼえられま
せんでした。もうそろそろおわ
るといふ所で、庄内由良の人と
写真をとったり、友達になった
人の住所を教えてもらったりし
ました。交流会が終わってから
でも、手紙を書いたりしていま
す。最高の夏休みとなりました。
このまま、たんごの由良と庄内
由良との交流が続けばいいなと
思いました。

6年 吉元 里香子

山形の由良小にいったら
く教室などを見てまわっていて、
それがおわって、体育館へ行っ
たら、全校生とが集まってい
て、すごいきん張りました。

いよいよ交流が始まりました。
山形の由良の校長先生がはちこ
皇子のことについて、くわしく
話をされたので、とてもいい勉
強になりました。

山形の由良小の人たちと交流
した内容は、まず最初に山形の

由良小のしようかいがありました
た。そしてスクールバンドで演
奏してくれました。すごくは
く力があつて「すごいなあ。」と
思いました。次に私たちは、由
良小のこのしようかいと、キ
ツズソーランをおどりました。
とてもきん張りましたが、すらす
ら読めたりちゃんとおどれたの

でよかったです。この後に6年
生どおしの交流がありました。
山形の由良小の人に花がさおん
どを教えてもらいました。給食
もいっしょに食べてみんなと仲
良くなれてよかったです。
これからも交流が続いてほし
いです。

今夏訪問しまし

た庄内由良の大変
なおもて成しに感
謝の気持ちをお届け
したところ鶴岡市
由良自治会長坂本
欽一氏から次のよ
うなお礼状が届き
ました。



謹啓
めつきりしのきやすい今日この頃と相成りました。
連日、丹後由良訪問団一行様には早朝より当地へ
おいで頂き、交流会、懇親会とハードな日程でさぞお疲れの
ことと思いましたが無事に帰郷なされた由、お喜び申し
上げます。
三年に一度の親善交流で大変懐かしいお顔を拝見でき、又
地元由良の人達も丹後の由良との交流に関心が深く、懇話会
には大勢参加し、更に、友好を深めることが出来たのでは
ないかと思っております。心苦しく思っ
ているところでありましたのに、多額なお礼などお送り頂き
恐縮の限りです。
折角のご厚意ですので、三年後の丹後訪問時の費用として
使わせて頂きます。誠に有難うございました。
最後に丹後由良の益々のご繁栄と住民皆々様の御多幸を
心よりお祈り申し上げ、先ずは書面にてお礼の言葉を
致します。
謹白
平成十八年九月十一日
丹後由良訪問団長
宮津市由良自治連合会長
野村孝行 様
鶴岡市由良自治会
会長坂本 欽一

北国の風光（山形にて）

由良小学校母親委員長 中西慶子

この夏、庄内由良訪問団に息子と参加し山形県を訪れました。

出発前まで寝台列車初体験の私たちは、どんな具合なのだろうとあれこれ思いを巡らせていました。実際に乗り込んでみると寝台は予想以上に広く清潔で、まずは一安心と旅に対する期待が膨らみました。しかし、

ガタンゴトンの大きな揺れとガタゴトの騒音は私たちを目的地まで運んでくれるためとはいえ、残念ながら最後まで「子守り歌」とはなりません。どうしてでしょう？ 周りにいる子供達はスヤスヤと寝息をたてているのに。（私の方が繊細？？）とはいえ、見知らぬ人が浴衣姿で行き交う姿に一瞬目をパチクリしたり、独り旅なのではないか、帰省なのではないか？ 若い男性が通路に備えつけのイス

に座り、流れゆく窓の外の風景

に目を凝らしている姿に胸がドキッといやキュンとなったりして、寝台特急「日本海」は旅の雰囲気をも醸しだしてくれました。そして翌日の早朝、列車は初秋の空気に満ちた「あつみ温泉駅」に到着。さあいよいよ！

庄内由良の方は元気で心のあたたかい方々でした。晩の交流会には年輩の方、地域の役員の方、学校関係の方と沢山の方がわざわざ足を運んで下さり、皆さんが「よう来たねえ」と迎えて下さいました。土地柄、お人柄なのでしょう。初対面とは思えないほどの人柔らかさで接して下さったおかげで、私たちもすぐ心打ち解けて話はずみになりました。それはまるで久しぶりに大勢の親戚が一堂に会したよ

うで、とても心強い思いでした。蜂子皇子が私に新しい人の輪を与えて下さったのでしよう。でも、どうしてこれほど心が和むのでしょうか？ 今考えると、山

伏の吹く法螺貝が響き渡る羽黒山山頂の悠然とした佇まいの羽神社、修験道の霊地で神秘的な佇まいの湯殿山、どちらも緑濃い広大な自然の中にあり、今にも神々が集いそうな所です。また、日本海に金色の波を漂わせながら沈みゆく大きな夕日は、

地元の方が「ぜひ観て帰って」と誇らしげに話される通り、それは美しくすばらしいものでした。「女心と秋の空」という言葉があります。夕日が水平線上に沈む姿に思わず歓声をあげたり、何とは無しにも悲しく涙が出そうになっている自分に気づいたとき、ふと、「女心と庄内の夕日」が浮かびました。（詩人になれるのでしょうか？）自然の力は偉大ですね。そしてもう一つ、地元の方が「関西風」と言

われる、言葉の語尾に「のお」がつく、例えば「〜でのお」という話口調も大自然に揺り動かされた心にとっても響くものがありました。

大自然と親しみ、荘厳な佇まいに圧倒され、そして何より人の笑顔と触れあつた今回の旅は楽しく美味しく貴重な経験でした。自治連、歴史を採る会の皆様には準備段階から帰路に つくまで大変お世話になりました。ありがとうございました。

小学生からおじいちゃんと呼ばれる方までこの団体の旅は、今後はもう体験できないことでしょう。この旅を通して感じたこと、考えたこと、味わったことを大切にして行きたいと思えます。そして、心あたたまる触れあいを丹後由良の方や由良を訪れた方々と持てたらこんなにすばらしいことはない！ と思うこの頃です。皆さま、本当にありがとうございました。

残したい伝えたい

由良の自然と文化

京都府立大学 三橋 俊雄

今日、私たちに求められている大切な課題の一つは、人と自然が深い関係性の中で共生し、地域の歴史・文化を次世代に向けて継承・創新していける地域づくりを、いかにすすめていくかではないでしょうか。

私たちは、そうした想いを抱いて、本年8月3日から7日まで、当地由良に滞在し、多くの方々にお世話・ご協力をいただきながら、夏季学外演習「宮津市由良地域の歴史的・自然的資源を活かしたエコミュージアム提案」を実施させて頂きました。演習には、京都府立大学学生16名(うちOB2名) 教員2名、滋賀県立大学学生1名の計19名が参加しました。

今回の演習では、由良のかけ

がえのない「光・魅力」を現代

社会では消えかけている大切なもの、残していきたいもの、これからも発信していきたいものとしてとらえ、それらの「光・魅力」を由良の方々にも、また由良以外の地域・都市の方々にも理解してもらい、楽しんでもらうための「町ぐるみ博物館Ⅱエコミュージアム」であるとして、次の4つのテーマを掲げ、調査を行いました。

- (1班) 水田を再生して、環境教育のためのエコパークづくりを提案する。
- (2班) 由良岳の生態的、景観的、あるいは山との関わりについて、その魅力を調査する
- (3班) 由良の伝統的・歴史的

資源を生かし、町ぐるみ博物館を実現するための「お宝自慢」を調査する

(4班) 汐汲浜の塩づくりの道具・方法や海の遊びを

調査して、由良の海の生活の魅力を発見する
初日は、昼に到着後、まず地域をバスで巡りながら由良の概略をご紹介いただき、続くオリエンテーションでは自己紹介、由良の概要説明、意見交換等を、さらに夜の部では、各班に分かれての住民の皆さんからの情報提供と調査に係わる打合せ等、心温まるコミュニケーションをさせていただきました。

二日目、夏の厳しい暑さのもとでの由良岳登山では、「一杯水」に出会った時の感激や、由良岳山頂からのすばらしい眺望、また、登山途中で出会ったノイチゴ、カワラナデシコ、オオバギボシ、ホタルブクロ、ナルコユリ、ヤマジノホトトギス、ヤマ

アジサイ、オカトラノオなど、山中にひっそりと咲く野草の美しさ、けなげさ、自然の多様な豊かさについて深く感じる事ができました。

また、実質三日ほどの短い調査ではありましたが、由良の自然的、生活文化的資源の魅力やかけがえのなさに触れさせていただきました。その間、われわれの質問・インタビュにも快く対応していただき、地域の方々の由良の未来に対する熱き思いが伝わってきました。学生達も初めて尽くしの経験の中で、「由良石」「田舟」「ゼンマイ飛行機」「山頂まで続く棚田跡」「汐汲み浜の塩づくり体験」「カニ捕り」など、まさに、大学の授業では得られない「大切なもの」に出会い、何かを学び取ったように思います。そして、最終日の夜の「学生報告会」では、由良の「魅力や楽しみ方」などについて、学生なりに新鮮な視覚から発見し発表してくれたのではないか

と感じました。

このようにして、私たちは、宮津市由良の歴史や自然と共生してきた人びとの暮らしのなかから、潜在的な資源・価値を再発見し、地域内外の例えば学生や都市住民と由良住民との交流を通して、その価値を学び、伝え、共有していくために、「地域の光をデザインする」「エコミュージアムによる地域づくり」という観点から、由良が元気で誇り高い地域になっていただくためのデザイン（調査・解析・創造的提案）をおこなっていくつもりです。

また、私たちは、地域が外部の力によって発展・活性化するのではなく、地域に内在する自然的、生活文化的、人的資源を十分に活かしてこそ、そして、住民が主人公になってこそ、自らの力で、独自の、いきいきとした地域を創り出していけるのだということ。「内発的地域づくり」という言葉でとらえ、そ

の実践・お手伝いを、本学学生と共に皆さんの由良地域でさせていたいただきたいと考えています。今後末永いお付き合いをさせていただきますようお願いいたします。

お知らせ

京都府立大学から「由良の宝物」と「由良岳の自然」一枚のパネルをいただきました。

由良の里センターに展示してありますからご覧ください。



(1) 各班に分かれての調査打合せ

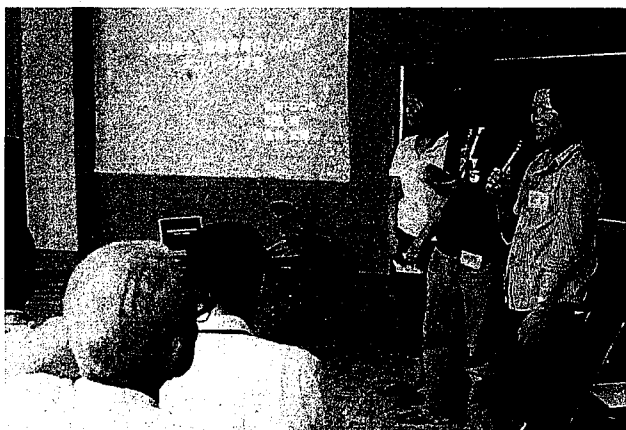
(3) センマイの葉で作った飛行機



(2) いざ、由良岳登山へ



(5) 学生発表会



(4) 塩ができた!!



短歌



山口 幸一

自分には履けない靴を磨きいる両脚のないアフガンの子よ
戦争の大義ころころ変わりゆくとのつまりは大国のエゴか
この子らに銃は再びとらすまじ平和を叫ぶアカと呼ばれて

藤本 史代

作動せぬころのボタン押しなおす夏樹に蝉のじんじん鳴きて
くきやかに一夏いちげひと日の花掲ぐもみじ葵の鮮烈の緋よ
モネ、ゴッホ、ゴーギャンの絵の向日葵も黒く翳りて夏傾きぬ

とよ子

ピアラ光る婚の主席の孫娘恥じらう眸をわれに向けたり
ふんわりとベールのような尾緒振る番つがいの白の金魚めずらし
あわあわと日々流れゆき喜寿超えて感慨深し いまの幸せ

坂本 妙子

群れ外れし蟻はひたぶる暑き日に何を求めて何考えて
受話器より弾みし声の聞こえ来ぬ夏健やかに過ごせし友の
酷暑耐えし病葉一片舞い散りぬ初秋の風の心地よき朝

山田 よしの

庭を占め咲き極まりし白牡丹わが掌の中にくずれ落ちたり

夏の朝は東の空も白まぬに夜明けを告げて鳥のさえずる
庭隅より採り来てきざむ青紫蘇の香の清しさよ 夏のよろこび

山口 美子

われ一人 見る人もなき露草を強き花よとじつと眺めつ
乾きたる大地に生きたる露草は生き生きとして太陽の下
亡き母の野良より花を持ち帰り子らに渡せし笑顔なつかし

大森 萬喜子

湖包む海津の桜四千本眺めし去年を 車窓に思う
甲子園高校球児の好プレー 勝ちても涙負けても涙
青竹の樋に流るる素麺を子らは箸にて上手に掬う

大森 美智子

フルートの音に荒城の月歌う趣味の仲間は今宵若かり
高原のみどり愛でつつ仲間らと尽きぬ会話のログハウスの夜
草屋根の廢屋もありて一幅の惚ぶ絵となる高原の里

中西 夏江

寛・晶子の歌碑建ちていまありありと新しく光る 遠き日の歌
昭和五年ここに詠まれし歌を彫る碑はみづみづと黒く耀ふ
雲晴れて海山あか明る天橋立はしたてに「回旋橋はし」詠みし歌碑はつひに建ち
たり

(平成十八年七月七日、与謝野寛・晶子夫妻の歌碑が天橋立に建立され、除幕式が行われた。)

ソフトボール大会

協分館長 奥野 彰

グラウンドゴルフに参加して

玉垣 泰子

オリンピックではないが、参加することに意義があるということ。例年参加していたソフトボール大会に今年は分館長として臨みました。

ソフトボール大会にしる四部対抗バレーボール大会にしる、体育部員を中心に選手集めをしていた為、青年会や体育部員に依頼して大船に乗っていたところ、いざ選手名簿提出の段階になつて「人数がぎりぎり、分館長を入れて9人位、壮年会から2〜3人集めて」といわれ大慌て。私が出場するくらいなら息子達を出した方がましだ。そう、だ息子達の同級生は野球部や、もっと上手な子がいるじゃないかと声をかけたら息子を含めて6人が参加することになりました。

若々しいチームが出来たし、勝かと思つていたら一回戦は宮本チームに大量先制点を許し、やっぱり現役やその近い若者はタイミングが合わないからダメなんだとあきらめていたところ一巡した頃から猛打爆発、逆転して勝つてしまいました。

決勝戦も同様で「あれ？勝っちゃつた」というのが感想です。一部（脇地区）がソフトボール大会で優勝したのは何年振りでしょうか。若い子達が地区代表として四部対抗戦に参加してくれたことは大変意義のあることであり、いずれ社会人として故郷を離れることがあつても盆休みには、ソフトボール大会を楽しみに帰省する。そんな大会になればと思つた一日でした。

ナイターでグラウンドゴルフ。久々にグラウンドに立つて胸がキーンとなり心もウキウキ幸せな気分でした。

こんな思いになつたのは体調を悪くして六ヶ月の入院生活、退院してやつと「スポーツ」が出来る嬉しさからです。参加10チームで体育部長さんのユーモアたっぷりの各チーム紹介があり、年齢層も30代から70代と幅広く、私達のチームは「ミマ会」といつて巳年と午年の同級生の会です。試合開始、「カーン」とボールを打つ音、「キャア」「ウワー」とグラウンドは賑やかです。私も闘志が湧いてきました。スティックで力一ぱいボールを飛ばし、走つて！追っかけて！やつた！と仲間と握手する。

こんな感じではしゃぎながら全ラウンドを回り無事終了、心から感動し楽しい一時ひとときでした。この大会に誘つてくれた同級生が「このチームの代表はあんたやし、名前書いていたから、病後やしんどいなんて言つてないで出てこなあかんで」と励ましの一言が嬉しく「よっしゃ、頑張ろう」と出場しました。

医者から「何事も前向きな気持ちで」と言われた言葉をいつも思いながらこれからの人生を過ごしていこうと思ひます。大会に出場することが出来て私にとつて生まれ変わった新鮮な心にさせてくれました。帰り道、みんなが「おもしろかつた」「また出よ」と満足そうでした。毎年続けていただけたらいいなと思ひます。

「いわき市金山地区」との 交流について（いわき金山地区の伝説）

山下 憲 弥

8月26日、私たち「由良の歴史をさぐる会」の五名は、新潟で庄内由良訪問団と別れて東京経由で福島県の「いわき市」へと向かった。「いわき市金山地区」は山椒太夫物語の発端である岩城判官平政氏（正氏）の屋形があつたとされている土地である。駅に着くと「金山の昔を伝える」の会長の遠藤拓二さんと会員の中田耕一さんが出迎えてくださった。直ぐ安寿・厨子王・母の三人の旅姿の銅像へ案内して頂いた。なかなか立派な像であつた。横にはその説明の石碑が建つていた。これも立派なものであつた。この他に三方所ゆかりの地を案内して頂いた。母子像に近い金山町集会所で交流会がもたれた。

挨拶・自己紹介の後、両地方に残る安寿と厨子王の物語について、それぞれの地区の伝説について紹介し合つた。いわき市金山地区の伝説については私より紹介した。次に「金山の昔を伝える会」の活動と「安寿と厨子王の物語を通した町づくり」について金山自治会長の横山英司さんより説明があり、引続き「由良の歴史をさぐる会」の活動について四方会長より説明がなされた。その後、自由対話と若干の質疑応答があり、交流会は有意義に終了した。

この交流会で驚いたのは、「いわき」では「安寿と厨子王の物語」は伝説ではなく、歴史的事実として認識されていることである。山椒太夫物語は全国各地に散在しており、その内容もそれぞれ異なっているところがある。しかし、共通項は「山椒太夫物語は伝説である。」ということとである。歴史的事実として認識されているのは「いわき」のみである。「いわき」では山椒太夫物語とは言わない。安寿と厨子王の物語である。

これから「いわき」の安寿と厨子王の物語について紹介する。岩城には文書として残っている資料が三部ある。（その一部の磐城実記は頂戴した。）その内容は、それぞれ若干異なつたところがあるようであるが、金山の昔を伝える会で妥当と認められている筋道で紹介する。なお、姉は万珠、弟は千勝又は医王丸となつているが混乱するので安寿、厨子王と統一して表現する。

初代の岩城判官は政氏で源頼朝に任命され岩城小名浜の住吉館（城）に住んでいた。大番役で都にいた時、皇居の警衛に手落ちがあつたので筑紫の安楽寺へ流された。息子の政道が二代目の岩城判官となつたが凡庸で父ほどの政治力がなかつた。姉婿で重臣の村岡重頼は政道を桜狩りに誘い、その帰途暗殺した。時に姉の安寿は十三歳、弟の厨子王は十一歳であつた。これを知つた重臣の大村次郎は奥方、安寿、厨子王、乳母小笹を連れて城を出たが途中追つ手に捕まり殺害された。四人は奥方の実家のある岩代の信夫へ逃げのびた。

その後、四人は安楽寺へ流された政氏を訪ねることと、都へ上り村岡重頼の悪業を訴え出て領地の回復を図るために越後へと旅立つた。

越後の寺泊海岸で人買いの山住鬼夜叉にたまされて、親子別々に船に乗せられ、母と小笹は佐渡へ（途中、小笹は海へ飛び込む）、安寿と厨子王は丹後へ売られることとなつた。

安寿と厨子王は丹後由良の三庄太夫（由良・橋立・成相の三ヶ庄の支配者）の屋形に連れて行かれ、安寿は篠、厨子王は忘路

と呼ばれ、姉は汐汲み、弟は柴刈りと酷使された。

三年後、安寿十五歳、厨子王が十二歳になった時、姉は弟を説得して三庄太夫の屋形より逃亡させた。厨子王は五里ほど先にある橋立の延命寺に逃げ込んだ。追手の次郎、四郎は大勢の手下を連れて寺へ侵入したが、観智和尚につづらの中にかくまわれて助けられた。一方、安寿は次郎に焼き金で責められ、火箸を喉に受けて死亡した。

その後、厨子王は閑院左大臣為房と会い、その保護を受けることになった。武道に励み何とか努力したので為房の娘、玉綾姫を嫁にもらうこととなった。

三年後、十六歳の時、大炊介道隆と名乗り、父の仇を討つよう勅命が下り、三千人の軍勢を引き連れて奥州へ向かった。途中援軍三千人が加わり、総勢六千人で塩谷城へ押し寄せ、村岡重頼を滅した。この度の恩賞で丹後の国司に任ぜられた。厨子王

は丹後へ国入りし、次郎と四郎は赤裸にして梁に吊り上げ焼火箸を喉に当て突き殺した。三郎は姉弟に情け深いところがあつたので縄を許し、錦欄、緞子綾錦を与え、由良の庄を与えた。

三庄太夫についてはその首を入れ代わり立ち代わり諸臣に竹鋸で引かせた。三日後に首は落ちた。厨子王は賞罰を厳しくして、民衆を可愛がったので国中が豊かに治まったという。次いで厨子王は母を探すために佐渡へ渡った。母は盲目となり、粟を食べにくる雀を追っていた。初めは疑っていたが、厨子王とわかり、二人は再会を喜び、しっかりと抱き合った。

岩城の物語では歴史的事実と言うことで、地元の旧蹟に因んでこの後のこともいろいろと述べられていくが割愛する。

以上が岩城の「安寿と厨子王の物語」の概要である。前述の三部の資料はいづれも原典は説経節の「さんせう太夫」だと思

われる。内容的には説経節に似通っている。全く違うのは、発端の政氏のところと三庄太夫の息子兄弟の善玉、悪玉が逆転しているところである。

当日は国民宿舎の「勿来の関荘」に一泊した。翌日はまづ最初に中田さんの車で遠藤会長に奥州三関の一つ、勿来の関の旧蹟と勿来関文字歴史館を案内して頂いた。次いで、「安寿と厨子王の物語」ゆかりの地八ヶ所を案内して頂いた。精しく丁寧な説明で歴史的事実と認識されている理由はよく理解できた。お忙しい中を二日間、私たちのために懇切で行届いた案内をして頂いたことに対して衷心よりお礼申し上げる次第である。今回の「いわき」訪問で私たちにまた一つ新しい知識が積み重ねられたことを感謝している。



「みんなともだち にっこり えがお」

(宮津市人権標語 小学1年入賞作品)

五十年目の真実(II)

(文豪三島由紀夫と丹後由良そしてポツポ屋(鉄道員)修さん)

藤沢市 平間 武

三島由紀夫取材ノートから

由良へむかふ道

○由良川

ひろい、青い、底知れぬど
んよりした川。ボラ釣りの
季節

○どんより曇った空の下の荒
涼たる由良川の河口。

○山椒大夫の屋敷跡

その上の邸跡は夏みかん園
と雲州みかん園。

○河口近く竹やぶに包まれし

州あり、水田一、二丁歩、
天水で耕す。

(中略)

○狭い河口。

河口の外れ、河口より八里
△形の冠島あり。

『由良湊千軒長者』

由良海岸 浸蝕甚だしき故

護岸工事 セメント流し込

み 冷たい白さ 沖暗く、

雲累々たり その間に冷た

い薄い青空のぞけり 白い

雲のはし、冷たき羽毛 砂

浜よりスリバチ体形に落つ

る海 砂―花崗岩質 鉛い

ろの海 沖は納戸いろ

山々はいかめしい黒紫色

うしろ由良岳

○四馬力コンクリート・バイ

ブレーター

以上、三島本人が実際に創作

ノートに記していた丹後由良に

関する取材内容であったが「由

良湊千軒長者」まで記されてい

たのには恐れ入った。

このように直に丹後由良を取

材した三島は「金閣寺」を書き

上げた後日談の中で「主人公の
郷里に近い舞鶴方面へも旅した
が、あちらの北の海岸の荒涼た

る景色は心に深く刻まれ、主人

公が放火を決意する重要な心象

風景として用いた」このように

語っている。やはり、三島が13

キロの距離は歩くに値するとの

決断を下した背景は決して軽は

ずみや思いつきではなく、彼の

特異な、ひとつの狙いと直感(イ

ンスピレーション)的なひらめ

きがそうさせたのであろう、そ

してその時期の由良川の情景と

その河口から見る日本海独特の

鉛色の怒濤は彼のその期待を決

して裏切らなかつたのである。

何はともあれ三島は西舞鶴から

丹後由良までの約13キロを歩き

抜いたのである。

(以下次号に続く)



形ノ冠島

(この山形は三島本人が実際に創作
ノートに記していたものである)

おことわりと訂正

・多数の原稿をお寄せいただき
ました。紙面の制約があり全部
を掲載することが出来ません。

四方俊一氏「経ヶ岬から潮岬
まで(最終回)」、大森孝氏「戦
時中の青春」、山下憲弥氏「蜂子
皇子」については次号に掲載い
たします。ご迷惑をおかけしま
すがご了承ください。

訂正について

公民館だより127号・

大森孝氏の「舞鶴の寺

の高台より港埠頭を見

おろすと」の文中、21

頁三段目、玉垣肇氏の

職務について「京都地

方検察庁へ入り、書記

官の重い職務」とあ

りますが、「副検事」

が正しく訂正してお詫

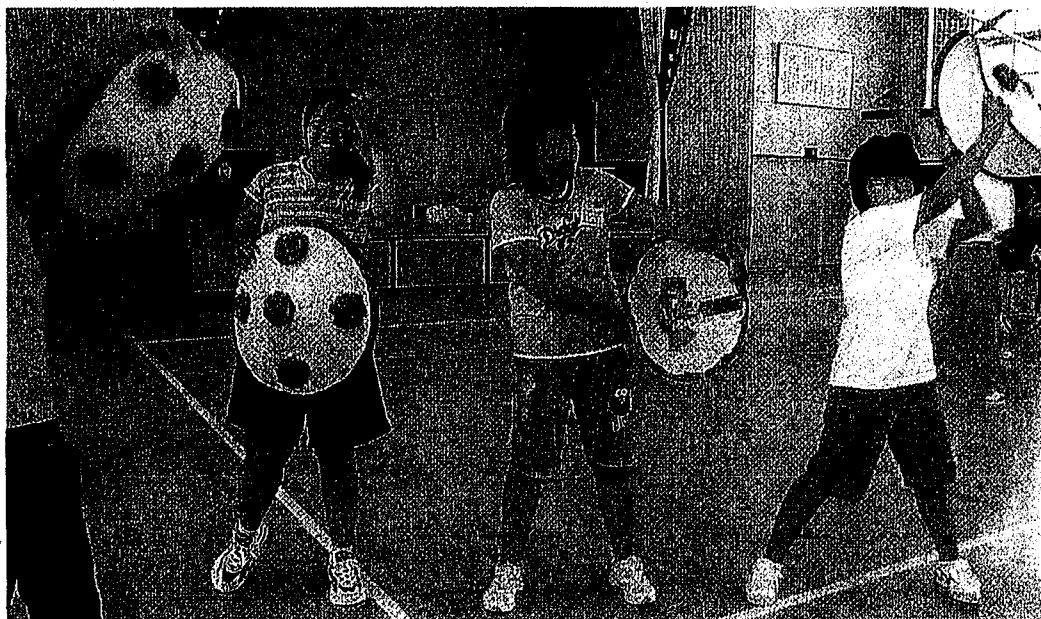
びいたします。

ppp

(荘叢日報)

2006年(平成18年)8月25日(金曜日)

2つの由良小 友情深く



京都府立鶴岡市
宮津市

6年ぶりに来庄、花笠音頭一緒に

胸に残る交流を

京都府の丹後半島にある宮津市立由良小学校(倉野英明校長、児童57人)の6年生が24日、鶴岡市の由良小学校(庄司和利校長、児童65人)を訪れ、お互いの友情を深めた。古代の伝説や同じ校名をこいした共通点があることから交流を続けており、丹後・由良小からは6年ぶりの来庄。

出羽の由良と丹後の由良のつながりは、ともに蜂子皇子の伝説が縁となっている。今から約1500年前、権力争いから蘇我馬子に殺された崇峻天皇の皇子・蜂子親王が大和の国を脱出。丹後由良の港から落ちのび、出羽と丹後の由良小児童が花笠を手に笑顔で交流した。

羽の国にたどり着いた。皇子は故郷をしのび、その地を由良と名付けたと伝えられる。ともに日本海に面した海岸に位置する自然環境、由良・海水浴場があるなど共通部分も多く、双方の自治会が1985年「友好浜の宣言」の盟約を結んだ。

両校の交流は、子どもたちがお互いの地区の歴史のつながりを知り、

れている。

鶴岡・由良小で行われた交流会では、同校の佐藤平君(6年)が「1500年前のつながりで、今も交流できることは素晴らしい。胸に残る交流をしたい」、丹後・由良小の前畑俊樹君(6年)が「これからも交流が続くように願いながら友情を深めたい」とそれぞれあいさつ。鶴岡・由良小6年生が「先生役」となって花笠音頭を一緒に踊り友情を深めた。



編集後記

祭の太鼓の音が鳴り止んだ頃「公民館だより」を皆様のお手元に届けようと努めています。

今夏は由良小学校の児童と一緒に庄内由良を訪れましたが、その感想を綴ってくねました。

すばらしい体験が将来の糧になればと願っています。

その他にも京都府立大学による由良地域の歴史的、自然的資源を活かしたエコミュージアム提案をテーマに取り組みがありました。

指導されておられます三橋俊雄教授にも多忙な時間を削いて原稿をいただきましました。

今年は明治40年の大水害から丁度百年に当ります。災害は忘れた頃に、と云われていますが平穩無事に毎日過ごせたらと願わずには居られません。(飯澤)